

令和4年度 一般入学試験問題

国語

注意事項

- 1 問題は1ページから17ページまであります。
- 2 試験時間は50分です。
- 3 試験開始の合図があるまでは、この問題冊子を開いてはいけません。
- 4 試験開始後、この問題冊子のページ不足・印刷の不鮮明などの不備に気づいた場合は、監督者に申し出てください。
- 5 解答はすべて解答用紙に記入してください。
※字数制限のあるもので、句読点などが必要な場合は、すべて字数に含みます。
- 6 解答用紙には、志望クラス、出身中学校名、受験番号、氏名を必ず記入してください。

自由ヶ丘高等学校

— 次の文章を読んで、後の各間に答えよ。

子供は、学校でけつこう苦労している。勉強も大変である。僕は、社会人のしている仕事の方が、学業よりも楽だと考えている。どちらかといえば、子供の方が大変だと思う。ただ、そう思わせては、子供も可哀相だし、大人もやりづらい。だから、やつきになつて大人は「仕事の大変さ」を捏造していのだ。

大人の何が楽かといつて、仕事は辞められるが、子供は学校は辞められない。また、事実上、子供の自由で学校は選べない。大人は仕事を選べる。これだけを取つても、子供の方が過酷である。『1』仕事は基本的に自分の得意な分野であるはずだ。

一方、学業は、不得意なものでも、（特に小さい子供ほど）しっかりと向き合わなければならない。
仕事が凄いものだというイメージを、まるでテレビコマーシャルのように大人は作っている。実際に、テレビコマーシャルになつてゐるものもある。たとえば、「国を動かす仕事」とか、「未来を築く仕事」とか、そういう言葉の印象だけで大きく見せれる。まるで、それらが「ゲームを作る仕事」よりも「やりがい」があるかのようだ。そんなイメージを植えつけようとしているのである。

しかし、既に書いたことと一部重複するけれど、国を動かすとか、未来を築くとか、それは個人の力によるものではない。そういう力を持つてゐると錯覚しているだけだ。権力を握るのも、大きなお金を動かすのも、仕事上の立場、つまりルール上に成り立つものであつて、個人として特に偉いわけではない。「俺が国を動かした」と言いたいのかもしれないが、せいぜい、「関わった」という程度のものにすぎない。そんなことを言つたら、ほとんどの人が国を選挙を通じて動かしている。『2』

巨大な橋の建設に関わつた人は、大根を毎年収穫する人よりも偉いわけではない。そういうものに「未来」や「やりがい」があると感じさせるのは、明らかに言葉だけのイメージで錯覚を誘つてゐる。ようするに「自慢できる仕事」みたいな他者の目を気にした浅ましさにすぎない。

もし、個々の仕事に差があるとすれば、それは賃金の高低くらいだろう。賃金の高い仕事は、能力が要求されたり、大きな責任を問われるものだ。高ければ高いなりにリスクがある。『3』だから、それだけ神経を使う必要があつて、体力的にも精神的にも消耗するだろう。だから賃金が高い。逆に、誰にでもできるものは、賃金が安くなる。このあたりは、商品と同じだ。

以上に述べてきたことは、僕の考え方である。これを人に押しつけるつもりはない。たとえば、自分の仕事にやりがいを感じてゐる人は、それで良いと思う。そんなの馬鹿げている、という話をしているのではない。どんなものをどう考えようが個人の勝

手なのだ。ただ、これから就職をしようとしている人で、どうもそれが思いどおりにいかない、と悩んでいる人は、少しこういった基本的な原則に立ち返つてみてはどうか、という提案をしているだけである。

人目をして良い会社に入りたいとか、両親が一流企業にどうしても入れたがるとか、そんなプレッシャーを受けている人はけつこう多い。案外、そこそこに能力があつて、勉強もできて、エリートを目指そうとしている人の方が、この傾向が強い。そのプレッシャーに打ち勝つて期待に応えられる人は良いけれど、そうではない人だつてはいるはずだ。『競争』というのは、誰かが勝ち取れば、誰かが落ちる。たまたま運悪く落ちた人が、自分は「人生に落ちこぼれた」と結論するのが間違っている、ということを書いているのである。

□、就職しなければならない、というのも幻想だ。人は働くために生まれてきたのではない。どちらかというと、働かない方が良い状態だ。働かない方が楽しいし、疲れないし、健康的だ。あらゆる面において、働く方が人間的だといえる。ただ、一点だけ、お金が稼げないという問題があるだけである。

したがつて、もし一生食うに困らない金が既にあるならば、働く必要などない。もちろん、働いても良い。それは趣味と同じだ。働くことが楽しいと思う人は働けば良い。それだけの話である。こんなことは当たり前だろう。

若い人は、自由にものを考えられる軟らかい頭脳を持つているから、そういう「遊んで暮らせる身分」に素直に憧れる。憧れるのはとても自然だし、できればそういう暮らしがしたいものだと思うのは、人間として正常である。ところが、年寄りになると何故か、そういうものの考え方に対する否定的だ。「そんなことを考えてはいけない」と怒る人さえいる。凝り固まった頭というのには、理屈も理由も、正常ささえも失われている。

たぶん、自分が一所懸命働いて生きた人生があつて、それに価値を持たせたいのだと思う。それは、そのとおり価値がある。立派な生き方だ。『5』

たとえば、親の遺産で大金を手にした人は、遊んでいれば良いと思う。その人が働いて得た金ではないけれど、犯罪を犯したわけではないし、正当な理由で受け継いだものだ。それなのに、遺産を残す親の側が、子供が仕事をしなくなることを恐れて、遺産をなかなか渡さない、なんていう話も聞いたことがある。この頃はみんな長生きをするから、遺産が転がり込むのは、子供が還暦になつた頃、というのが平均的なところで、その年齢になつて金をもらつても遅い、と僕は思つたりする。もし、子供に残せる金があるなら、子供が遊んで暮らせる人生を送るなんて、素晴らしいのでは？ それが素直に認められないのは、なにか貧乏根性が抜けない古い考えに支配されているのだ。

遺産をもらった場合も、やりたいことがあるという子供なら、楽しい人生が送れるだろう。それは仕事でも良いし、仕事でなくても良い。打ち込めるものがあることが大事だと思う。

(森 博嗣 『「やりがいのある仕事」という幻想』より)

問一 本文中からは次の二文が抜けている。本文に入れるにはどこが最も適当か。本文中の『1』～『5』のうちから一つ選び、番号で答えよ。

しかし、だからといって、仕事をしないで遊んでいる人を非難するのは、まちがいなく行きすぎだろう。

問一 本文中の社会人のしている仕事の方が、学業よりも楽だについて、筆者がこのように考える理由として適当でないものを、次の1～5のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 学校は辞められないものであるから。
- 2 仕事は得意な分野だけができるから。
- 3 学業は苦手なものもあるから。
- 4 仕事は自由に選ぶことができるから。
- 5 子供は学校を自由には選べないから。

問三 本文中の仕事が悪いものだというイメージを、まるでテレビコマーシャルのように大人は作っているについて、筆者が考えるその理由として最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 他者に自分の仕事を認められることによつて、自分が必死にやつてきたことに価値があつたと思いたいから。
- 2 大人のやつている仕事が勉強よりも辛いとすることによつて、勉強の方が大変だという真実を隠したいから。
- 3 働くためには優れた能力が必要だとすることによつて、子供が自分から一生懸命勉強するようにしたいから。
- 4 国家や未来を作る仕事に価値があると子供に植え付けて、娯楽を生み出す仕事に就かないようにしてから。
- 5 大人は立派であると錯覚させることによつて、子供が大人の眞の姿を見てがつかりしないようにしたいから。

問四 本文中の このあたりは、商品と同じだについて、筆者は仕事のどのような点が商品と同じだと言っているのか。その

説明として最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 高価な商品ほど品質が良く消費者からの信頼を受けるように、仕事も、賃金が高くなるほど丁寧な仕事になつて他者からの信頼を得られるという点。

2 相手から沢山商品を購入するほど相手との関係が親密になつていくように、仕事も、相手に賃金を多く支払うほど相手と良好な関係になるという点。

3 需要に対しても供給が少ないので市場における価値が高くなるように、仕事も、需要に対してもできる人が少ないものほど賃金が高くなるという点。

4 生産者の思いではなく消費者の評価によつて商品の価値が決まるように、仕事も、他の人からの評価によつてその価値が決まるものであるという点。

5 商品の価値がその商品自体の品質よりも宣伝の巧みさによつて決まるように、仕事も、その価値が社会での有用性だけでは決まつていらないという点。

問五 本文中の 基本的な原則について、これはどのようなことか。その説明として最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 賃金の高い仕事をしたいのなら、その分自分に要求される能力が高くなるのも当然だということ。

2 仕事の差は賃金の高低くらいのもので、偉い仕事と偉くない仕事があるわけではないということ。

3 仕事がうまくいかないという人は、仕事にやりがいを求めること自体が間違つているということ。

4 能力が高くて優秀な人間になるほど、他人からの評判に対しても敏感になる傾向が強いということ。

5 国の事業にやりがいがあるなどと考へるのは、言葉のイメージによる錯覚でしかないということ。

問六 本文中の □に入る最も適当な語句を、次の1～5のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 つまり

2 なぜなら

3 だが

4 そもそも

5 したがつて

問七 本文中のこんなことについて、これはどのようなことか。その説明として最も適當なものを、次の1～5のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 5 4 3 2 1 働くことは非人間的行為であるのだから、我慢をすることが重要だということ。人間は働くためではなくて、趣味や娯楽のために生まれてきたのだということ。働きたい人は働けば良いし、働かなくても良い人は働く必要は無いということ。人間は極力働かない方が、健康面や精神面などから考えて望ましいということ。働かなければ賃金が得られないため、豊かな暮らしは不可能であるということ。

問八 本文中の年寄りになると何故か、そういうものの考え方を否定的だ
で本文中から三十一字で抜き出し、はじめの三字で答えよ。

から

問九 本文の内容と一致するものとして、最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 自由に仕事を辞められる大人よりも、学校という限られた空間の中で生活をする子供の方が、複雑かつ入り組んだ人間関係の中で多くの苦労をしている。

2 未来を築く仕事をや国を動かす仕事などは個人の力だけで行うものではないので、そこにやりがいを感じるのはメディアのコマーシャルによる錯覚である。

3 一流企業に入社できなければ人生に落ちこぼれてしまうという強迫観念を抱いている人は少なくないので、過剰な期待をかけることはするべきではない。

4 親が働いて得たお金を自分の子供が受け継いで、その結果として自分の子供が遊んで暮らせる人生を送ることに対しても抵抗を感じる人も世の中にはいる。

5 楽しい人生を送るために、仕事にやりがいを見出すべきだという幻想から解き放たれて、自分のやりたいことを仕事以外に見つけることが大切である。

二

次の各間に答えよ。

問一 次の傍線部の漢字の読みを、平仮名で書け。

為替相場の変動によつて殖えた財を寄せた。

問二 次の傍線部に適當な漢字をあて、楷書かいしょで書け。

ふうちょうに合わせるのはやさしいことではない。

次の文章を読んで、後の各間に答えよ。

被災二日後に祖母はこの家に身を寄せ、それから二週間がたつ。しかし震災の日に起きたことを一切語らない。ただ、夜は寝巻きを着ないで、いつでも外に出られる服を着て眠る。そしてあかりを消さないでほしいと言う。

ふすまが開き、父母が部屋から出てきた。

母が祖母の布団に向かい、声をかけている。

「お義母さん、ちょっと枕元を失礼します」

「気にしやんといて」

居間を突っ切り、二人が台所に入ってきた。沈んだ顔をしている。

なつちゃん、と母がコーヒーポットを見た。

「ヨーヒーはあとにして。上でちょっと話したいことがあるの」

ペーパーフィルターを置む手を止め、奈津子は両親を見る。

「大学のこと？ それならここで聞くけど」

「久美子にも話があるんだ」

暗い声で父が言うと、階段を上がつていった。

「進学の話？」

そうね、と母が短く答え、父に続いて二階に向かつた。

奈津子が二階に上ると、父が久美子の部屋をノックしていた。

「久美子、入つていいか。お母さんも一緒だ」

えーー、と久美子の不満そうな声がした。

「突然、何？」

「お姉ちゃんと久美子に話があるんだ」

「それなら下で聞く」

「下では困るんだ」

「私の部屋、散らかってるから、お父さんに入つてこられると困るの」

久美子の部屋には化粧品や派手な色の服が置いてある。母は半ばあきらめ、黙認しているが、父は高校生らしくないと怒りそ
うだ。

自分の部屋のドアを開け、奈津子は父を手招く。

「お父さん、それなら、私の部屋で話そう。……つていうか、なんで下で話したらダメなの？」

「進学の話じゃないのよ」

部屋に入ってきた母が小声で言つた。

その口調から、祖母の話のようだと察して、奈津子は勉強机の椅子に座る。

祖母は一階の居間で寝起きしている。家族の誰が誘つても外出せず、一日中居間でラジオを聴いているか、テレビを見ている生活だ。

この家は小さく、客間がない。二階の二部屋は奈津子と久美子の部屋、一階は父母の寝室と居間、あとは台所などの水回りだ。たまに親戚が来たときには、祖母のように居間に布団を敷いて寝てもらつていた。数日間の宿泊ならそれでよかつた。ところが生活をともにするとなると、不都合が生じてくる。

とりあえず困るのがテレビの問題だ。一台しかないテレビが居間にあるので、両親も妹もこれまでのようく番組を見るのをためらつてゐる。

入るぞ、と言つて、父が奈津子の部屋に入ってきた。そのあとに、『』をした久美子が続く。

両親が奈津子のベッドに座り、久美子は床に座つて脚を投げ出した。

「こら、久美子。行儀が悪いぞ」

「つていうかさ、お父さん、突然すぎ。で、何の話？」

お祖母ちゃんのことなんだけど、と母がためらいがちに言つた。

「いつまでもリビングで寝起きするのも、お互いのプライバシーが保てないじやない？だからお父さんと話したの。久美ちゃんの部屋をお祖母ちゃんに譲つてくれない？それで、なつちゃんの部屋をしばらく一人で共同で使うの」

えーっという声が姉妹で重なつた。

声が大きいと言いたげに、母が人差し指を口元に当てる。

父が沈んだ顔のまま『』と首を横に振つた。

「耳にラジオのイヤホン入れてるから。ああしてみんなに遠慮してるんだ。本当はテレビの音を聴きたいところを、テレビは他

の家族に譲ろうと……」

「私だつて遠慮してる」

母が強い口調で言つた。

「夜、トイレに行くときも、朝、お勝手に行くときも、お義母さんの枕元を通らなきやいけないから、そのたびに謝つて。お父さんと話をするのだつて、声をひそめて遠慮してる。お勝手だつて、お義母さんの煎じ薬、いつまでも匂いが残るのに、何も言わずに我慢してんじゃない」

父が腕を組み、目を閉じた。

私、と久美子が手を上げた。

「朝の洗面所がね、困る。朝シャンしたいのに、お祖母ちゃん、入れ歯の手入れが長くて」

「久美ちゃん、それはね、お母さんも言いたいことがある。夜に髪を洗つているのに、どうして朝もあんなに念入りに髪を洗うの？」最近、水道代もガス代もかさんでいるのよ」「今に限つたことじゃないでしょ。それ、私のせい？」

「その話は今はいい」

父が話に割つて入ると、久美子を見た。

「そういうことだから。久美子、部屋を空けてくれ。お姉ちゃんの部屋へ移れ」「えーっ、でも」

久美子が立ち上がり、勉強机を指差した。

「お姉ちゃんはさ、夜遅くまで勉強するでしょ。明るくて寝られないよ。それにお姉ちゃんの受験勉強の邪魔にもなるし」

「私も困る。久美の服とかごちやごちやしたもの、この部屋に入らない。それにこんな狭い部屋に一人でいたら気が散る。勉強できな」

「お祖母ちゃんとの同居がわかつていたら、いろいろ支度もできたのに……」

母がため息をつくと、父が押し殺した声で言つた。

「それなら、どうしたらよかつたんだ。あのまま避難所にお袋を置いておけばよかつたって言うのか」

「そんなこと言つてないでしょ。でも突然すぎて」

「そんなのお袋も一緒だよ！ お袋が一番そう思つているよ！」

「わかつてゐるから、私たちこうして」

ドアの向こうで、カタン、と小さな音がした。

母が口に手を当て、父が廊下のほうを見た。

椅子から立ち上がり、奈津子はドアを開ける。

廊下に四人分のコーヒーが載つたお盆が置いてある。階段を見ると、祖母がゆっくりと下りていくところだった。

久美子も部屋から出てきた。

「やばい、お祖母ちゃん、聞こえてたかな。お姉ちゃん、どう思う？」

「どうかな……、聞こえてたかも……」

お盆を持った母がうなだれ、父が乱暴に頭を搔きむしった。

もう、いい、と、うんざりして、奈津子は部屋に戻る。

「わかつた。それなら私がお祖母ちゃんと、この部屋を使う。どう？ 受験が無事に終われば、あと二ヶ月で家を出るんだし。そのあと、お祖母ちゃんがここを使えばいいよ」

「勉強はどうするの？」

コーヒーのお盆を持ったまま、母がたずねた。

「高校の図書館でする。元々、そのつもりだつたし。夜は台所の食卓で勉強する。着替えや寝るときだけ、ここを使うよ。そうしたらお祖母ちゃんも気が楽でしょ」

しかし……と、父が顔を曇らせた。その顔に語調を強めて「いいよ」と奈津子は言う。

「もう面倒くさい。うだうだ話したつて、みんな譲歩する気がないんだから、埒明かない。お祖母ちゃんと私が同室。これが一番効率いいよ」

東京にある工業系の大学に合格して、三月中旬には上京。そうすれば一ヶ月を切つて、祖母にこの部屋を渡せる。

なんて効率が良いのだろう。数学的に言えば、これこそが美しい解法。

効率の良さ、すなわち美だ。

(伊吹 有喜 『犬がいた季節』より)

問一 本文中の ペーパーフィルターを畳む手を止め、奈津子は両親を見る。

について、ここで奈津子の様子を表した熟語と

して最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 当惑 2 怪訝 3 憂愁 4 狼狽 5 委縮

問二 本文中の 自分の部屋のドアを開け、奈津子は父を手招く。について、その理由として最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 両親の不穏な態度から直感的に自分の進路の話だと推察し、日頃から心配をかけていることを申し訳なく思つたから。
2 妹の部屋を見て父が怒りだす可能性があり、それが話の内容によつては自分にまで及ぶかもしれない予想したから。
3 二階に上ることにこだわる父の様子から、話は姉妹への説教だと感じ取り、少しでも父の機嫌を取ろうとしたから。
4 ドア越しに聞く父と妹の進まない会話をうまく切り上げさせ、気になつてゐる父母の話を早く聞きたいと思ったから。
5 すぐに祖母についての話だと察知したため、声の大きな父と妹の話し声によつて祖母が起きては大変だと感じたから。

問三 本文中の ≪ ≪に入るものとして最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 ふくれつ面 2 泣きつ面 3 吻ほえ面 4 まぬけ面 5 寝ぼけ面

問四 本文中の に入るものとして最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 ダメだ、もう遅い 2 かわいそうなことをした 3 たぶん、聞こえない
4 ジタバタしても仕方ない 5 きっと、聞こえたな……

問五 本文中の私だつて遠慮してゐるについて、ここからうかがえる母の心情として最も適當なものを、次の1～5のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 義母の昼間のわがままな生活ぶりを夫が全くわかつていないことに空しさを覚え、一面的な見方で感想を並べたてていることに抗議しようと思つてゐる。

2 我慢しているのは家族全員であり、更に最も我慢しているのは自分であることを主張して義母よりも自分たちのことをもつと考えてほしいと思っている。

3 義母の心配ばかりする夫の話しぶりに嫌気がさし、自分ひとりが被害者でいるような態度を日頃からみせている義母のことも知つてほしいと思っている。

4 娘たちと話をうまくまとめようとしていたのに、夫がそれを邪魔するようなことを言い出したので、こみあげる悲しさをじつと我慢しようと思つてゐる。

5 あまりにも義母中心のことばかりを口にする夫に少し苛立ちいらだをおぼえ、気づいていないところで自分も我慢している現実を知つてもらおうと思つてゐる。

問六 本文中のそういうことだから。久美子、部屋を空けてくれ について、久美子に部屋を移動させる理由を父母はどのように話し合っていたと考えられるか。その理由を左の空欄に合うように本文中から三十三字で抜き出し、はじめと終わりの二字で答えよ。

祖母が

から。

[]
[]
[]
[]
[]
[]
[]
[]
[]
[]
[]
[]
[]
[]
[]
[]
[]
[]

問七 本文中の 父が押し殺した声で言つた

について、ここからうかがえる父の気持ちの説明として最も適当なものを、次の

1～5のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 自分に対する当つけのような妻のため息に申し訳なさを感じながらも、努めて冷静な態度で対処しようとする父としての威厳が生まれた。

2 噴出した妻の不満に対して脅威を感じながらも、それに抗うかのように日ごろから堪えてきた怒りをぶつけてこの場を開しようと思った。

3 自分への抗議とも取れるような妻の言葉にショックを受け、肝心な時に一つにまとまりきれない家族への不満と自分自身の無力さに襲われた。

4 一緒に説得をしていたはずの妻の本心に気づかされ、それに対する憤りを押さえながらも誰もが自分本位でいることにやるせなさを感じた。

5 うまく話がまとまらずに急に言い訳めいたことを言い出した妻に不信感を抱き、我慢をしていた妻への不満を吐き出したい欲求にかられた。

問八 本文中の わかつてる

について、ここで母は何を「わかつてる」と言っているのか。その内容として最も適当なもの

を、次の1～5のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 家族の中で最も環境の変化に苦しんでいるのが義母であり、みんなで義母への配慮をしていかなければならぬということ。

2 震災で自分の家を失った義母を癒すためには、少なくとも夫婦である自分たちだけでも我慢しなければならないということ。

3 義母が震災の衝撃から立ち直っているかどうかはわからないが、その傷が癒える日まではそつとしておくべきだということ。

4 義母が遠慮するのは、実は家族には干渉されたくない感じているからであり、自分がだけがそれをわかっているという

こと。
5 家族みんなが我慢してやさしく接することで義母は震災の傷から立ち直り、同時に家族もまとまっていくはずだという

問九 本文中の「いいよ」と奈津子は言うについて、ここにおける奈津子の気持ちの説明として最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 困惑する父を救うためには姉である自分が我慢するべきであると納得し、妹のためにもこれ以上家族が言い争うのはよくないと思つてている。
- 2 この家で過ごす時間が最も短いのが自分であり、祖母との同室は当然のことなので、今は両親に心配をかけないことが必要だと感じている。
- 3 自分を犠牲にしてまで解決策を出したにもかかわらず、譲歩する気もないのに必要以上に干渉してくる父の偽善的な態度に半ば呆れている。
- 4 誰も本気で譲り合ふこともなく、父までも心配顔を装つて話かけてくるので、もう自分の居場所がここにないのだと自暴自棄になつてている。
- 5 家族の窮地に際して、本意ではないが自らを納得させて解決策を提示したものの、進展をみせない父母の態度に対しても憤りを募らせている。

次の文章を読んで、後の各間に答えよ。

※塚原ト伝はじやうしう塚原の人なり。父を新左衛門といへり。ト伝剣術を飯篠長意に稽古し、伊勢の国司に仕へ、剣術を以て名を得、※光源院殿の師たり。——(中略)——ト伝が弟子の中に勝れたる者に、^{すぐ}一の太刀の極意を授くべしと人も思ひけるに、かの弟子ある時、道のほとりにつなぎたる馬の後ろを通りけるに、かの馬跳ねたりしに、ひらりと飛びのきて身に中^はらず。見し人、「さすがに、塚原が弟子の中にも勝れたるよと言ひしに違はず」と誉めてト伝に語りけるに、ト伝大きに驚きて、「さては一の太刀授くべき器にあらず」と言ひけり。諸人このことを不審して、「試みよ」とて類無き跳ね馬を道の傍^{かた}につなぎ、ト伝を招きて側^{かた}に隠れて見るたりしに、ト伝馬の後をよけて通りしゆゑ、馬跳ねんともせず、人々はかりしに違ひければ、後にかくと語り、「さて、かの弟子の早わざを誉め給はぬはいかに」と言ひければ、ト伝聞きて、「さればとよ。馬の跳ぬるに飛びのきたるは、技は利きたるに似たれども、馬は跳ぬるものといふことを忘れて、うかと通りしは怠りなり。飛びのきたるは仕合せといふものなり。剣術も時により、下手にても仕合せにて勝つことあるべし。それは勝ちたりとも上手とはいふべからず。ただ先を忘れず氣を抜かぬをよしとするなり。一の太刀の位に及ばざること遙^{はる}かなれば誉めざりき」と答へしとぞ。

(湯浅 常山 『常山紀談』より)

※ 塚原ト伝……戦国時代の剣術家。
※ 光源院殿……室町幕府第十三代將軍足利義輝。
※ 一の太刀の極意……最も勝れた弟子にだけ伝える剣術の極意。

問一 本文中の じやうしゅ は現在の群馬県一帯を指す地名を平仮名で記しているが、これを現代仮名遣いに改めて平仮名で答えよ。

問二 本文中の 中らず は「あたらず」と読むが、この「中」と同じ意味で使われた「中」を含む熟語を、次の1～5のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 中立 2 中断 3 掌中 4 中毒 5 途中

問三 本文中の このことを不審して について、その理由として最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 弟子が馬の蹴りを見事にかわしたのに、ト伝の弟子への評価は低かつたから。
2 勝れた弟子に一の太刀を授ける儀式に必要な器をト伝が探していたから。
3 一番弟子が人々の賞賛を受けたのに、師匠のト伝がそれを妬んだから。

4 弟子の身のこなしの軽やかさに、剣術の名人のはずのト伝が驚いたから。

5 馬が急に跳ねたのに、弟子の身には全く傷をつけることができなかつたから。

問四 本文中の 人々ばかりし について、人々はどんなことを「ほか」ったのか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 道の傍らの馬と隠れて見ている人に、ト伝が気づけるかどうかということ。
2 比類ない暴れ馬を準備し、ト伝を蹴り倒し、高慢なト伝をやりこめること。
3 道につないだ馬とその後ろを通るはずのト伝の距離を人々が推測すること。
4 どんな暴れ馬でも大人しくさせることができるか、ト伝の力量を測ること。
5 馬が跳ねたときにト伝がどれほど上手くよけることができるかをためすこと。

問五 本文中の かの弟子の早わざを誉め給はぬはいかに について、これは何をたずねているのか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 ト伝が、弟子をうつかり者だと決めつけた根拠。
2 弟子が、ト伝の剣術の極意を理解できなかつた原因。
3 ト伝が、弟子に一の太刀を授けようとしない理由。
4 弟子が、ト伝の慎重さを一切賞賛しなかつたわけ。
5 弟子とト伝の、剣術に向かう姿勢や心がまえの違い。

問六 本文中の 仕合せ のここでの意味に最も近いものを、次の1～5のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 幸運 2 奇跡 3 痛快 4 神技 5 運命

問七 この逸話のト伝の考えに最も近い成句を、次の1～5のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 己の欲せざる所、人に施すことなかれ
2 将を射んと欲すれば先づ馬を射よ^{まよ}

- 3 将を射んと欲すれば先づ馬を射よ^{まよ}
4 虎穴に入らずんば虎子を得ず

- 5 戰はずして人の兵を屈するは善の善なるものなり

問八 この文章の説明として最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 人々の感想を挿入しながら物語を興味深く進行し、ト伝の力量を見くびつた人々が、結果的に言いくるめられる滑稽さを描き出している。

- 2 簡潔な文体で論評を加えず出来事を淡淡とししながら、最後のト伝の発言で、勝れた剣術家としてのト伝の信条を明らかにしている。

- 3 対句的な表現を多用し、武士としての勇猛な生き方を描きつつ、結末でいききつを明らかにして何事にも動じず冷静なト伝を称えている。

- 4 弟子とト伝の跳ね馬への対応を対比的に描き分けることで、ト伝の弟子に対する厳しい態度を明確にし、弟子の愚かさを強調している。

- 5 場面を詳細に説明する修飾語を多用し、登場人物の心情を細やかに描き出すことで、ト伝の剣術の極意を読者に感得させていく。

一般入学試験問題 国語 解答用紙

志望クラス (番号を○でかこんでください)									
1. スーパー特進					2. 特進			3. 進学	
出身中学校		受験番号					フリガナ		
中学校								氏名	

解答記入欄

国語得点	
------	--

問二	問一
ふ う ち よ う	為 替
や さ	殖 え た
しい	

二

問九	問七	問五	問三	問一
問八	問六	問四	問二	

一

小計

小計

問八	問六	問四	問二	問一
問七	問五	問三		

四

問九	問七	問六	問四	問一
問八			問五	問二

三

小計

小計